

○粥 ……水をたっぷり加えて米をやわらかく煮たもの。

補説

○85句目「魚觀生竈釜」の表現に込められた故事の考察

『蒙求』「范冉生塵」に、清貧質素な人の話として、「范冉」のことが記されている。范冉は、貧乏で食物がなかったため、こしきには塵が積もり、釜の中には水ばかり故、魚を生ずるといわれた。ここでは、この話を暗に踏まえ、道真の今の悲惨な窮乏生活を叙している表現と考えられる。以下にその原文と訳文を引用する。

新釈漢文大系本の『蒙求』より引用した。

**本文** 後漢范冉、字史雲、陳留外黄人。受業通經。好違時絶俗、為激詭之行。常慕梁伯鸞・閔仲叔之為人。桓帝時為萊蕪長、遭母憂、不到官。後辟大尉府。以狷急、常佩韋於朝。議者欲以為侍御史。因遁逃梁沛間、賣卜於市。遭黨人禁錮、遂推鹿車載妻子、拮拾自資。或寓息客廬、或依宿樹蔭。如此十餘年。乃結草室而居。有時絶粒、窮居自若。閩里歌之曰、甌中生塵范史雲。釜中生魚范萊蕪。

（口語訳）後漢の范冉は、字は史雲といい、陳留郡外黄県の人である。彼は、学業は樊英より受け、馬融よりは経義を授かり通じていた。また、自分から好んで時代に逆らい、世俗と交わりを絶ち、人に逆らう異様な行いを振舞っていた。常に梁伯鸞・閔仲叔の高潔な人柄となりを慕っていた。桓帝の時、萊蕪の県令に任命されたが、ちょうど母の喪に服さねばならなかったので、（中略）自分でも反省し、それを矯めようと常にも皮